

作物別技術交流集会報告

メロン

らでいっしゅぼーや(株)農産部仕入課 野島 靖智

3月29日(金)・30日(土)、愛知県は渥美半島の先端の伊良湖岬で、メロンの品目としては3回目の技術交流集会が行なわれた。岬の先端に圃場を持つ天恵グループを幹事生産者として、生産者17名、スタッフ9名、そしてアドバイザーの小祝氏を含め27名が集まった。

Radix

■地域差を目の当たりに

初日の天気は雨風共に強く最悪のコンディションだったが、そんな中でも現場を見たいという声が高く、天恵グループの津田敏男さんと清水義満さんの圃場を見てまわった。圃場は今までほとんど見たことのない、石(けっこう大きいものもある)や礫が多く入った特徴的な土壌(砂状土)で、改めて地域ごとの土質の多様性を感じた。地域ごとに栽培方法が異なってくるのは当然だろうと思わざるを得ない。

■食味の向上、実践の難しさ

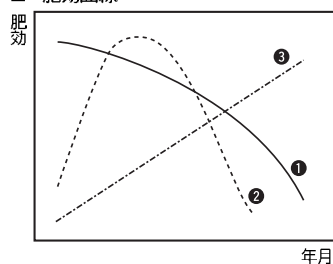
今回のテーマは、前回に引き続き「食味の向上」。数あるらでいっしゅの野菜・果物の中でも、メロンは会員の期待度が高いため、特にその食味が重要な品目である。メロンのクレーンを見て(グラフ1参照)、2000年・2001年と「おいしくない」が全体の16%を占め、傷み・腐れの19%に次ぐ多さとなっている(傷み・腐れもおいしさに直接関係してくるものと思われる)。過去2回の集会でも食味が話合われており、生産者の意識は高まってきているが、その成果が作物に現れているかは、人により様々である。昨年行なわれた2回目の集会で、参加者から今後の目標が掲げられたことを受け、初日は栽培の現状や予定などと併せて、昨年の目標に対する結果(目標を実行できなかった方はその理由)を話していただいた。土壌診断を

して、それに基づいた施肥設計を行なっていくことを大半の人が目標としていたが、土壌診断の必要性がわかって実際に土壌診断をしても、診断に基づいた適切な施肥をすることは、なかなか難しいようであった。

■自分たちの肥効を知ること

ひと通り生産者の発表が終わってから、小祝氏はおもむろに黒板に図を書き始めた。(グラフ2参照) タテ軸に窒素量、ヨコ軸に時間をとって3本の線を書き、生産者に聞き始めた。「自分達のはどれだと思いますか?」。書いたのは肥効曲線といい、窒素の効きかたをあらわしたものである。生産者は、①最初に肥効が最大となり徐々に落ちてくるもの、②時間が経つにつれ後半に肥効があらわれるもの、③途中で肥効が最大になり再び落ちてくるもの3パターンのどれかを選んだが、絶対これだという確信をもっている感じではなかった。

グラフ2 肥効曲線



小祝氏は、まず自分の肥効の状態を知ることが大切で、その上で窒素の効かせかたが重要であると言う。的確な施肥をしていけば初期の肥効が大きく、その後段々と落ちてくる形になるのだが、なかなかそうはいかず、収穫期になっても窒素が残りやすいので、収穫まぎわに水分を断って窒素を切る生産者が多い。ただ、そのように水分調整をするにも、実際は最後に窒素をうすく維持していくような水分調整が肝要であ

るとのこと。メロンは、収穫期に窒素分の肥効が強いまだと、完全に水を切っても純粋な甘さにはならず、えぐみが残るといふ。そしてもうひとつ重要なのが、石灰・苦土など、土壌診断に沿って適切な微量元素を補給していかなければならない。自分のところの肥効を知った上で必要な要素の過不足を見極めて、追肥の時期や量を判断していくのが、生産者の腕の見せ所だと、小祝氏は生産者を叱咤激励した。

小祝氏の話が終わってから、改めて生産者達にこれからの目標を発表していただいたが、生産者同士の質疑応答も活発になった。元々意欲的な人が多いメロンの生産者だが、やろうとしていることが集会の始めの時よりもより具体的にになり、一層前向きになっているようだった。2日目の最後、前日十分に見ることのできなかった圃場に立ち寄り、会議で話し合われたことなどを思い返しなが、今回の集会は幕を閉じた。

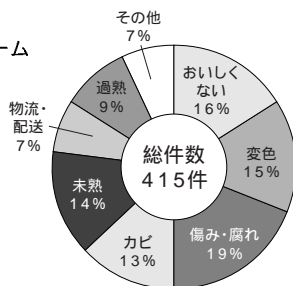
【実際に土壌診断しても難しかったこと】

- 分析方法によって数値に誤差が出るため、どの数値を元にするか判断に迷う
- いろいろな肥料があり、どれが最適なのか迷う
- 施肥のタイミングが難しい
- 今までの自分の経験や勘がジャマをする
- 肥培管理ソフト自体難しい

【これからの目標】

- カリ過剰、PH高、苦土欠の傾向なので栽培の後半、マメに葉面散布してみる
- 苦土、石灰を再確認してみる
- カリを減らしていく
- 苦土の補給
- 窒素の分析度合いを細かく観察していく

グラフ1
メロンクレーン
理由別内訳
(2001年)



プロフィール

野島靖智
らでいっしゅぼーや(株)
農産部仕入課
00年入社。定期品神奈川センター発注担当。29



才O型。古きよき那西を愛し史跡めぐりを好む。座右の銘は「おもしろきこともなき世をおもしろく」(by 高杉晋作)。ただいま新生活の準備中。